進学通信

ステップゼミナールだより

ホップ・ステップ

3 March

第77号
2013年3月1日発行

『3月5日の入試直前』

武修館、高専の入試も終わり、いよいよ公立高校の入試まで一週間を切りました。今年の釧路高専は過去にない高倍率（公立高校との併願の影響か？）で、合否の判断は発表を見なければ分からない状況です。

また、公立高校も江南高校の裁量問題採用の影響か明輝高校の倍率が1.95倍という驚くものでした。出願変更により75名が移動し、不合格者は51名で昨年の定員割れとは大きな差があります。

受験生は、もう無理をせずに体調を整えることの方が大切です。

中一、二年生も入試の日に学年末試験があります。内申点が決定する大事な試験です。まだ時間があります。しっかりテスト範囲を復習しましょう。

『日本は文系社会から理系社会へ！』

数年前からステップゼミナールでは、理系の道へ進む事を勧めてきました。大まかに言うと工業系と医療系です。

日本が力を失いデフレ状態が続いているのは、元々の日本が持っていた勤勉で、器用で、教育レベルが高い国民性を失ったからです。文系が作った実態のない経済の結果です。アジアの国々が台頭した今、過去の繁栄を夢見てもそれは無理でしょう。自分が大人になった将来を考えるとき、文系よりも理系の方が収入が高くなっている（別紙参照）ことを考えれば進む道ははっきりしています。男子も女子も理系を目指して頑張りましょう。数学・理科・英語の基礎力をしっかり付けることが大切です。

『大坪君からのメッセージ』

僕は小学校3年生から友達の新田君とこの塾に通っていました。7年間ましたが塾に通うことが生活の一部となっていました。

中学3年の時には数学が苦手なので自分だけ5時に呼ばれてひたすら数学の勉強をしました。そのおかげで何とか湖陵高校に合格することはできましたが、入学してからは硬式テニス部に入り毎日楽しくテニス三昧。高1の時点で数学は追試組、結果的には赤点を回避できたのは片手で数えられる程度でした。そのため（数学が苦手）行ける大学も限られ（自分の目指す方向が少し特殊）、他の教科も伸び悩み結局浪人しました。

今年（2013年）一浪の結果は本命校には届きませんでしたが、滑り止めに受けた学校には合格したので行くことになりました。自分のやりたいことが勉強できるところなので嬉しいです。

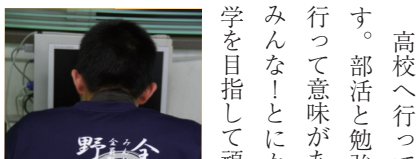
自分が高校2年生の頃からステップゼミナールでは高校生の授業もやっていて、友達は通っていたそうで、もしその時期に自分も来て基礎をしっかり勉強していたら、今回と違う結果だったのかもしれないなと少し後悔しました。

僕が言いたいのは「高校1年生からここで基礎が固められるよ！」と言うことです。

しっかり基礎学習が出来ていればある程度の大学には合格できます。正直、僕には基礎の部分出来ていなかったので第1志望校に合格できなかったのだと思います。

高校へ行っても勉強しなければだめです。部活と勉強、両立しなければ湖陵に行って意味がありません。

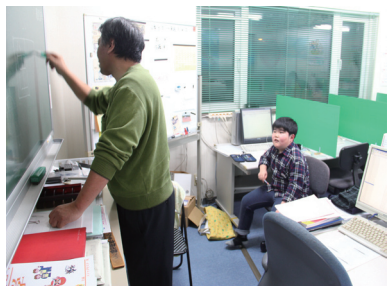
みんな！とにかく上位の高校、上位の大学を目指して頑張って下さい。（富原出身）



史也君は両立してるかな？

入試直前ゼミの中3生

定期テストに向けて勉強中の湖陵生


小学生との1対1の勉強は楽しい！

大学への進学が決まった大坪君

歯学部受験結果待ちの粟野君

明治大学へ進学の辻君

放射線技師の道へ進む住川さん

一浪の後、市立と孝仁会の両方の看護に合格した田垣さんと昨年合格した佐藤さん

高専から日立メディコへ就職の富樫君

ＪＲに就職が決まった浦田君

看護学校と大地未来へ鶴飼・富樫さん

『春期講座』

25日から春期講座がスタートします。期間は25日から4月4日まで。期間中は午前9時から午後6時までで、新中三生は4時間、二年生は3時間です。新中一年生（無料）は25日から30日まで10時から12時までの2時間で数学、英語の先取り授業を行います。

無料ですので良いスタートができるように、知り合いに新中一年生がいる方は紹介をお願いします。

なお4月3日は中一、二年生、4日は中三生が学力コンクール（全員受験）があります。新高一年生は高校スタートダッシュが11日からで、6回の講座で、入学後のお迎えテストで良い結果がでるように頑張りましょう。（毎年良い結果が出ている）

3月の予定

1	金	
2	土	☆入試直前ゼミ⑧
3	日	中三生全員授業
4	月	
5	火	公立高校入試（塾で自己採点）
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	■高校スタートダッシュ授業（6回）
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	公立高校合格発表
19	火	
20	水	☆春分の日☆休塾
21	木	
22	金	●終業式（釧路町）
23	土	
24	日	
25	月	●終業式（釧路市）■春期講座スタート
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	
31	日	

携帯電話の教室持込禁止

携帯電話の持込は禁止。連絡は塾の電話を使用して下さい。

発行：ステップゼミナール　088-0617　釧路町北都２－２－１　（TEL）0154-36-4170　HP：http://www.stepsemi.com　Mail：spirits@stepsemi.com

『学校生活を終えて』

釧路工業高等専門学校　電気工学科　富樫祐介

長いようで短かった高専生活。皆さんは高専の５年は長いなぁと感じるかもしれませんが、自分は特にそんなことを思う間もなく高専生活が終わってしまったなぁという感じがします。思い返せば、電気科での５年間はとても充実したものでした。

１～３年生までのころは、専門教科や簡単な実験があるものの、授業をしっかり聞く・提出期限を守る・テスト前の１週間前から勉強するという３点を自分の中でしっかり守り生活することで進級には問題なく、部活もやりながら楽しく過ごしていました。でも、そもそも自分は中学のときまでは勉強もできる方ではなかったのでよく問題なく進級できたなぁと思います。やはりこれは目標を持つことと持続・継続することが大事なのだと思います。このときの目標は「絶対に進級する」と「医療系の会社で働く」の２つでした。また、持続・継続とは中学のときに塾で身に付けた勉強する癖というのをそのまま高専生活でも自ら意識して続けることです。この２つが高専や高校生活を充実できる鍵かなと思います。

さて、４年生のころですがここが高専生活の鬼門の学年です。１～３年で学んだことの応用や実践的な実験など一気に勉強の内容が上がります。実際この年に自分が何をしていたのかあまり覚えていません。毎日やることがあって、勉強をしたり、小テストの復習をしたり、実験のレポートを書いたりととにかく机に向かっていたような気がします。しかし、今だから書けることですがこの年こそが自分が一番成長できた年でした。これは１～３年までの経験から、自分自身の力で物事を達成することが多かったからです。そして自分自身の力で勝ち取った進級･･･。残すは５年生だけです。ちなみに４年生は辛いだけではありません。高専際では自分たちで露店を開くことができたり、なんといっても修学旅行があったりとさまざまなイベントがあります。これを含めて４年はとても充実していながらも厳しく、成長できる年なのです。

５年生は学校生活のなかで一番授業数が少なく、とてもゆったりとした時間を過ごせる年です。５年生の最大のイベントは就職活動です。高専は就職にとても力を入れているので、４年のときのコミュニケーション実践という授業で敬語を習ったり、就職ガイダンスといって就職のノウハウを学んだり、企業説明会というイベントで集まった企業を自分で選んで実際の企業の方からお話を伺ったり等をしていたため不安は特にありません。もちろん緊張はしますけどね。そんなこんなで自分は目標通り日立の医療系の会社に就職を決めることができました。就職が決まれば、あとは卒業研究といって自分の興味あるテーマを研究する毎日なので空き時間も多くとても楽しい１年でした。

書ききれない部分は多々ありましたが、以上のような生活を送って自分は高専を卒業することになります。充実した生活を送るアドバイスをするとしたら、自分は２つあります。１つ目は、とにかく「やる」ということ。勉強も部活もとにかくやって努力してみて下さい。この努力はきっと未来で自分の力になります。２つ目は、困ったり、自分の進む道がわからなくなったりした時には「塾を訪れる」ということです。きっと、いいアドバイスをしてもらえたり、話を聞いてもらえたりと、これからの進む道のヒントが見つかるはずです。自分も５年間でけっこうな数、塾に顔を出していろいろな話をしたりアドバイスをもらったりしていました。今の自分があるのも塾のおかげだと思っています。なので、時間を見つけて塾に行ってみてください。もちろん自分もあまり力になることができませんが、聞きたいことがあったら気軽に聞いてください。何でもお答えしますよ。

それではよき学校生活を。

天声人語　2013.02.08

命に軽重はないけれど、喪失感の大きい訃報（ふほう）が続いた。才を惜しむ言葉を連ねつつ、神も仏もあるものかと嘆くばかりの小欄だが、ようやく神仏の存在を感じている。この子を死なせるわけにいかない▼「女性にも教育を」と訴え、武装集団に襲われたパキスタンのマララ・ユスフザイさん（１５）が、肉声のコメントを出すまでに回復した。銃撃から４カ月。砕けた頭蓋骨（ずがいこつ）の穴はチタンの板で覆われ、耳には聴力を取り戻す器具が埋め込まれた▼心にも鉄の衣を着せ､命がけで闘う決意とみえる。生死の境をさまよって､なお「神に授かった新たな命は、人助けに捧げたい」と気丈に語る姿は胸を打つ。ノーベル平和賞の候補とされるのも道理だろう▼彼女の信念はとりわけ、同世代の女性に響いたようだ。鳥取の高校生（１８）は、大阪本社版の声欄に「学ぶ意味、マララさんに知る」を寄せた。「教育を受ける権利が保障され、勉強ができることにもっと感謝しなければ。目的を持ち､楽しんで学ばなければと思います」▼日本や欧米では、勉強は｢させられるもの｣かもしれない。マララさんの受難を知れば､男女を問わず、皆が恵まれた境遇に気づかされよう。女性差別が残る国では、目覚めた娘たちが立ち上がっている▼人間､だれにも役割がある。生まれながらに伝統文化を背負い、歌舞伎の舞台に立つ少年がいれば、立志により「同性の未来」を担う少女がいる。生かされし幸運までも糧にする闘いに、今はただ、エールを送る。

天声人語　2013.01.12 より

青春のとき、夢もあれば不安もある。〈難しいと言われて燃える夢があるいつか作る機械の義手を〉。広島の工業高校２年大畑遼真（りょうま）君が詠んだ。長崎の農業高校３年芦塚俊介君は〈柿や蜜柑（みかん）栗などザルに盛られてる就活の僕もザルに盛られる〉▼毎年この季節、東洋大学から届く「現代学生百人一首」を楽しみにしている。２６回目の今年は全国から約５万４千首が寄せられたそうだ。どんな時代でも若さは宝だと、つくづく思う▼〈過ぎてゆく高二の夏を止めたくて朝顔一つ押し花にする〉鈴木亜矢子。青春の逃げ足はいつも速い。〈朝早くカーテン開けて光合成力満ちたらさぁ出かけよう〉高１、唐澤春奈▼政治に向く目に風刺がまじる。〈弟がテレビを見ながら僕に問う今年の総理は誰がなるのと〉高２、正木雄介。ネット時代を見る目も冷静で的確だ。〈「詳しくはウェブで」とうたうＣＭは情報社会の格差広げる〉高１、木村紗和音（さわね）▼家族のありがたみは家を出てわかる。〈「おかえり」がこんなうれしい言葉とは初めて知った寮に入って〉高２、高橋香那。遠くで働く親を思いやって〈四季のない異国の父へ秋便り庭の紅葉（もみじ）の押し葉のしおり〉高３、井上裕衣（ゆい）▼年若いほど発想は自在だ。〈えんぴつがくるりくるりとダンス中白いステージ中間考査〉中３、下迫仁子（ひろこ）。さて試験の結果は？　小学生の部に〈そよ風にたんぽぽみんな言っている種（たね）をたく配してちょうだい〉６年、本木万葉（まよ）。読み終えて、春に一歩近づく気がした。

「大学に合格」「資格は取った」けれど

大学に入ったけれども、就職が出来なかったとか中退したとかいう問題が半ば社会問題と化している。

例えば歯学部。１９６０年代に歯科医不足を解消するため（その頃、歯医者の待ち時間は２時間とか３時間待ちは当たり前、今痛いのに治療は２ヶ月後とか３ヵ月後でした)、国の強力な後押しによって歯学部が増設された。その結果、今は深刻な過剰状態に陥っている。何しろ、コンビニの数よりも多い。そして、実際に歯科医にかかると予防医学とでも言うのか、日常のケア面での指導がとても親切です。だから患者も減ってくるのだろう。

また、各種国家試験がとても難しくなっている。作業療法士、理学療法士、司法書士、行政書士などの試験は相当難しくなってきている。これらも、やや供給過多の面が試験の難化を招いているようだ。

弁護士資格など、日本のあらゆる資格の中で一番難しい資格。しかし、超難関のハードルを越えて晴れて弁護士になっても、年収２００万円などという、信じられないような現実もある。

これからは、こういうこともきちんとわきまえて、世の中の動きをしっかりと捉えたあらゆる勉強が必要となるのではないではないか。

それからもうひとつ。

大学内には「学内引きこもり」と呼ばれる学生が必ず居る。どんなやつらと勉強するのだろうかとワクワクした心も無く、積極的に友達をつくろうともしない人付き合いの出来ない学生。でも、こういう生徒でも数人の同性の友達は出来る。それで何をやるかと言えば、学内で携帯電話を使ってのゲームかカードゲームです。授業中もやっている。家に帰ればネットかパソコンゲーム。それにテレビのお笑い番組。日常に何ら生産性が無い毎日。これでは就職など出来るはずは無いし､出来ても「親に電話をかけさせ」て「明日から行かないと子供が言っています」となり、フリーター、アルバイト生活が始まる。みんなは、そんな大人にならないようにしっかり考え行動しよう。

今から小中学生が携帯やパソコンでネットゲームに夢中になっているようなら、わが子の将来を考えて親としての強権を発動するべきではないだろうか。